

令和4年度習志野市総合防災訓練 成果について

令和4年10月
危機管理課

総合防災訓練成果：その1

成 果 般	<p>今回の訓練は、令和元年度以降3年ぶりであり、受付・受入及び居住空間における感染症対策に重点をおいた避難所運営訓練と市民要望を取り入れた個別課目訓練を実施した。訓練全般を通じて、訓練会場となる避難所に来ていただいた1,991名の市民及び参加職員から貴重な意見を得ることができた。</p> <p>また、訓練会場を16か所に限定したこと、避難所備蓄資機材の災害用トイレが昭和60年代製造の物である等、課題となる事項を導き出し（洗い出し）多くの教訓を得ることができた。</p>
----------------------	---

防災訓練の概要		
目 的	① 市民、市役所、関係機関が連携し、「自助」・「共助」の強化を目的として実施 ② 特に感染症対策に重点をおいた訓練 ③ また、地区（各会場）の特性を踏まえ、その地区の要望を取り入れた個別課目訓練を実施 ④ より多くの市民の方に充実感をもって参加いただける訓練	
日 時	令和4年9月11日（日）午前9時00分～午後0時30分（3時間30分）	
会 場	16か所 ／ 26か所	市内公立小学校 15校／16校 ※実籾小学校は、大規模改修工事により使用不可 市内公立中学校 0校／7校 ※応急救護所訓練を1、2、7中で実施 市内高等学校 1校／3校 ※県立実籾高等学校（実籾小学校の代替え）
訓練項目	市民防災力 向上訓練	1 市民初動 シェイクアウト、脱出口の確保、火災予防措置 2 地区対策支部運営 安否確認情報の集約、安否情報・避難者情報を災対本部へ報告 3 避難所運営 2段階の受付・受入、感染症対策のパーテーション組み立て 4 個別課目 応急給水・救護・手当、初期消火、防災資機材の設置等 5 医療的ケア児への対応 自宅からの移動、医療機器への充電・導通、トイレ体験
	医療本部・ 応急救護所訓練	6 医療本部との連携 応急救護所との通信確保、患者のトリアージ、病院との連携
参加機関 ・団体	国	陸上自衛隊第1空挺団第3普通科大隊、航空自衛隊第1高射隊
	県	県企業局船橋水道事務所
	民間	NTT東日本・南関東、東京電力パワーグリッド、日本大学生産工学部、消防団
		県京葉地域獣医師会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、アマチュア無線非常通信連絡会

総合防災訓練成果：その2

細部訓練成果		
区分	評価	内 容
避難所運営 訓練参加者数	改善	1、991名：16か所（R4年）／2、555名：27か所（R元年） ※元年ベースの26か所で換算すると2,518名（1.4%減）であり、ほぼ同等の参加率
	改善	459名の市職員及び関係機関の方々が参加、元年と同等の勢力で対応 ※ペット対策として個別課目訓練に県京葉獣医師会が初参加、避難所のペット対策について演練
会場の設定	改善	16か所としたため、屋敷地区、津田沼北部地区、谷津地区の町会等と訓練について再調整 ※町会（市民）の方が参加しやすい会場の設定ミス・町会への配慮不足
会場ごとの 参加状況	継続	8か所において、微増を含め増加したことは、その地区の防災意識と周知の浸透が高い
	改善	8か所（5割）において、減少した原因を分析し、次年度へ反映 ※別紙「訓練会場ごとの参加状況」
市民初動	改善	安否確認訓練における確認・報告すべき情報の内容（確認できた世帯数・できていない世帯場所）について、認識の統一が図れていなかった。
	検討	町会・自治会内の安否確認におけるその要領について、市として統一すべきとの要望があった。 ※識別のやり方、町会等に加入していない世帯の確認要領
地区対策支部	調査	一部の支部設置の施設内において、防災行政無線が「圏外」の支部があり、施設外（校庭等）で災害対策本部との連絡を確保したため、報告時間所要大 ※実花小、東習志野小、実籾高、大久保東小、屋敷小、向山小、谷津南小、袖ヶ浦西小、秋津小
避難所運営	改善	①2段階受付の各々の窓口数の不足により、受付にかかる所要時間大
	改善	②事前・総合受付時の感染症対策として対応の避難所配備職員が少ないため、混雑（密） ※事前・総合受付時の内容について掲示が無いため、検温・記入要領等、困惑 ※体育館入口に設置していたため、参加された住民の流れが停止
	改善	③避難所における配備職員及び対策支部職員の識別が困難 ※現行、黄色・緑色のビブスで識別、避難者多数の場合ビブス確認しづらい
	改善	③感染症対策を確立した居住空間において避難者許容数を超えた場合の処置等、不明確
	検討	④避難所における感染症対策資機材の保管場所、未確保 ※パーテーション・ベット⇒現行、旧新栄幼稚園施設を活用し保管

総合防災訓練成果：その3

細部訓練成果		
区 分	評価	内 容
避難所運営	検討	⑤季節・天候等に応じた避難所における空調設備等の資機材整備、不十分
	改善	⑥体育館が2階に建設されている場合、高齢者・足の不自由な方への支援が不十分
	改善	⑥避難所内に案内板が無い場合、体育館及び事前・総合受付・トイレの位置が不明
	改善	⑦受付後、次の資機材設置訓練までの待機が長く、訓練統制が不十分
	継続	⑧パーティション・ベットの組み立て訓練は、高評価
個別課目	改善	①災害用トイレについて、製造が昭和60年代（和式）であり、現状と不整合
	改善	②防災資機材の不稼働（発電機）及び不機能リヤカー（パンク）を確認
	改善	③要支援者（障がいの方）に対する資機材の準備不足 ※医療機器稼働のための蓄電池、車いす、洋式トイレ
	継続	④初期消火、応急救護・手当については、初動時の基本的事項であり、高評価
その他	継続	東習志野小学校において、医療的ケア児と家族に対する対応の実施により課題を案出 ※避難所への移動、蓄電池によるたん吸引器への充電、災害時のトイレ
	改善	避難所運営訓練に参加いただいた1,991名の内、20名の若い方（20代と19歳以下）から貴重な課題を確認 ※町内会外でも気軽に参加できたのは良かった。受付の対応が良かった。ただ、管内での作業にはやはり取組難い。 ※もしもの時のやり方を知っておけば、災害時だけでなく様々な時に使えると思った。大変、勉強になった。 ※腰痛持ちの為、床に座り続けていることがつらかった。
	継続	3年前の訓練より充実していた。パーティションの大きさ、ベッドの強度などよくわかった。
	改善	アナウンス・拡声器の音が通らず聞き取りづらい。また、職員等、誰がどこにいるのか分かるようにすること及びパーティション等どのように並べるのか説明が必要

総合防災訓練成果：その4

教訓事項（課題）		
連番	区 分	内 容
1	職員の体制	避難所等における避難所配備職員及び地区対策支部職員識別のため、災害対策服等の準備 ※避難所で勤務する職員約150名分の識別帽と災害対策服・作業半長靴の貸与
2	情報発信	メール等による適切な情報発信内容のため、定型化 ※短文で簡潔に、解り易く不安にさせない情報発信内容
3	職員の体制	受付時の混雑解消のため、避難所配備職員の勢力変更 ※受付を2段階としたため、現行3名を4名へ (事前受付係・総合受付係・居住空間設定係・物資係)
4	本部事務局の対応	迅速に配備職員等を配置するため、参集時の把握及び送出し要領の改善 ※3Fホール及び廊下の活用し、登庁受付場所と資機材配布場所を設定
5	町会・自治会等との連携	訓練不参加町会及び自治会の解消のため、参加助長に向けた施策（処置）の確立 ※町会・自治会が参加し易い会場（学校等）の設定 ※防災担当者との調整（意見交換）により、参加したい訓練内容の確立 ※若年層の参加についての協議
6	要配慮者への処置	医療的ケア児・家族等の安心のため、資機材の準備と対応要領の確立 ※蓄電池の準備（必要数と必要地域） ※公共施設の非常用電源からの供給要領及び電気自動車等からの電源確保を検討 ※避難所における支援体制・要領の確立及び計画・マニュアルへの反映
7	安否確認処置	市民の安否確認のため、町会等で実施している戸別及び集合住宅における要領の提供 ※ドアノブ、ベランダへの識別できる物を表示 ※確認できない住家に対する処置要領
8	2段階受付の体制	① 混雑防止のため、窓口の増設と市民による支援体制の確立 ※窓口は町会ごと及び町会・自主防災組織の役員による支援を調整 ② スムーズな受付のため、避難者の動線を考慮した各受付設置場所等の検討 ※各受付内容の掲示板による処置及び注意事項の張り出し
9	感染症対策 居住空間等の確保	発熱者・障がい者等の居住空間確保のため、体育館以外の学校施設の利用について協議 ※会議室・多目的室等、パーテーション等の資機材保管場所

総合防災訓練成果：その4

教訓事項（課題）		
連番	区 分	内 容
10	防災資機材の改修	<p>不足備品、使用しづらい備品解消のため、災害用トイレの洋式化へ更新及び不足品の補充</p> <p>※中期的計画により、昭和製造の和式を要配慮者対応の洋式災害用トイレに改修</p> <p>※発電機・保冷容器等について検討</p>
11	防災訓練内容の設定	<p>災害時の対応等、全体像がわかるための展示型訓練について検討</p> <p>※市民初動～安否確認～被害者の救出救護～病院への搬送～被害情報の伝達～火災発生時の初期消火～避難所における事前受付・総合受付～居住空間の設置～運営委員会の設立運営～避難所要望事項の伝達～救援物資等の搬送～避難者及び被災者への物資の配布等</p>

訓練会場ごとの参加状況

連番	訓練会場	令和 元年度	令和 4年度	増減数	増減率			評価	分析
1	実花小学校	63	145	82	230%	2.3倍	増	○	町会長等の意識が高く、市民への周知が浸透
2	東習志野小学校	124	197	73	159%	1.59倍	増	○	
3	実籾高等学校	265	226	-39	85%	15%	減	×	屋敷4・5丁目の市民参加が減少と判断
4	屋敷小学校	199	209	10	105%	—		○	微増であるが前回並み
5	大久保東小学校	95	97	2	102%	—		○	
6	大久保小学校	161	188	27	117%	1.17倍	増	○	個別課目訓練の炊き出しが増加の1つと判断
7	藤崎小学校	197	120	-77	61%	39%	減	×	町会防災担当者と減少の原因を洗い出し、 次年度の訓練へ反映
8	鷺沼小学校	136	101	-35	74%	26%	減	×	
9	津田沼小学校	145	91	-54	63%	37%	減	×	
10	谷津小学校	77	116	39	151%	1.51倍	増	○	第1中学校への避難予定者が流れたと判断
11	向山小学校	54	42	-12	78%	22%	減	×	以前から参加全体が少ないため、個別課目訓練を 含めた訓練内容について要調整
12	谷津南小学校	86	76	-10	88%	12%	減	×	
13	袖ヶ浦西小学校	68	82	14	121%	1.21倍	増	○	教員・児童の参加により増加
14	袖ヶ浦東小学校	126	108	-18	86%	14%	減	×	町会防災担当者と減少の原因を洗い出し、次年度 の訓練へ反映
15	秋津小学校	154	68	-86	44%	56%	減	×	
16	香澄小学校	78	125	47	160%	1.6倍	増	○	町会長等の意識が高く、市民への周知が浸透
計		2,028	1,991	-37	98%	—			※総括で記載

総括	<p>◆16会場中、微増も含めて8会場における避難所運営訓練への増加が見られた。特に実花・東習志野・香澄地区において、1.5倍以上の市民の方が参加されたことは、防災意識が高いことと周知が浸透しているものと思料する。</p> <p>◆しかしながら、残り半分（5割）の会場においては、令和元年度より減少していることから原因（日程・訓練内容・個別課目・調整要領）を分析し、各町会防災担当者と調整の上、訓練の在り方又は実施要領について修正する。</p>
----	--